2021年度建設マスターに選ばれた手塚産業の建設機械オペレーター

工藤（くどう） 義人（よしひと）さん

似たような現場でも施工条件しっかり確認

2021年度の建設マスターとして10日、函館開建の高橋丞二部長から顕彰状を受け取った。手塚産業（本社・木古内）に入社して20年余り。「さまざまな仕事を頑張ってきたかいがあった」とこれまでの努力を振り返る。

建設機械オペレーターとしての顕彰。長年バックホーを操り、函館江差自動車道の整備を中心に腕を振るってきた。近年はICT建機や、従来機にICT機能を付け加えるレトロフィットキットも活用し、作業の効率化や高精度化、安全性の向上に取り組んでいる。

「似たような工事でも場所が違えば2つとして同じ現場はない」と、施工条件をしっかり確認することの重要性を説く。「どう施工するかを自分なりに常に考えてきたことが、成長につながったと思う」

函館江差道の現場では、橋梁の前後区間で人が入れないような場所など条件の厳しい施工を経験した。「元請けをはじめ現場関係者が一丸となって対策を練った」と当時を思い起こす。

現在は、斉藤建設（本社・函館）が函館開建から受注した229号乙部町館浦応急復旧の南工区で、土砂の搬出に使う旧国道の改良に従事。後進の育成にも力を入れるが「まだまだ経験不足。自分自身もできるかぎり頑張る」と謙虚に話す。

1969年10月28日生まれ、木古内町出身。趣味は中学生から始めたベースギターで、町内の仲間とバンド活動するのが息抜きだ。「仕事は忙しいが、何とか暇を見つけて楽しみたい」

（鳴海太輔）

ひと2021